

◆自分のICカードやスマホが鍵になる

『セキュリティワゴン』新発売！

ワーキングスペースやサテライトオフィスでの手荷物管理に最適。

◆オカムラデザインスペースR 第16回企画展

『Somesthetic - 身体性 -』

2018年9月27日(木)～10月17日(水)開催

株式会社オカムラ

オカムラの新商品と、デザイン企画展を紹介します。

ICカードやスマホで簡単に施錠できる『セキュリティワゴン』の新登場でセキュリティ収納をさらに充実させました。

「オカムラデザインスペースR 第16回企画展」の開催レセプションの様様。

～セキュリティ収納のラインアップ～

■簡易セキュリティ収納

『clette (クレット)』

- 自分のICカードやスマホでロッカーの鍵がかけられる。
- ボタンを押してカードをかざすだけの簡単操作。
- コワーキングスペースやサテライトオフィスの個人ロッカーに最適。
- オフィスでの備品管理に。
- 簡単管理でセキュリティ向上。
- 4人用ロッカー

価格 204,300円

(本体価格)～



## ■『セキュリティワゴン』(2018年10月新発売)

- 交通系ICカードや社員証など、自分のICカードやスマホが鍵になる、業界初『セキュリティワゴン』新発売。
- 鍵やダイヤル錠の運用がなく管理不要。
- PCでの履歴管理や個人情報登録などのわずらわしさなし。
- 自動施錠タイマー機能付きで施錠忘れを防止。
- 価格 98,000円(参考価格)



## ■電池式収納管理システム

### 『Rectline (レクトライン) BS II』

- 重要書類や、持ち出し管理が必要な備品に。
- ICカードやテンキー操作により鍵の管理が不要。
- 管理ソフトでの開閉履歴管理で非常時の追跡が可能。
- PC1台でしっかり管理。
- 電池式のため面倒な配線工事が不要。導入やレイアウト変更がスムーズ。
- 両開き書庫 価格 111,950円(本体価格)～



ICカード式(左)と  
テンキー式(右)



簡単設定で認証方式を選べます

## ◆オカムラデザインスペースR 第16回企画展 『Somesthetic - 身体性 -』

2018年9月27日(木) ~ 10月17日(水) 開催

今回で16回目を迎えた「オカムラデザインルームR」の企画展。毎回著名なデザイナーや建築家、アーティストなどがコラボし、取り上げるテーマにそって、新感覚の表現を展示発表する、画期的な企画展です。その開催発表セレモニー取材しました。

今回の「オカムラデザインルームR」企画展のテーマは、「Somesthetic - 身体性 -」。参加アーティストは建築家「新居千秋」氏とアーティスト「大原崇嘉」、「古沢 龍」、「柳川智之」以上3氏によるコラボ作品の展示です。

5つ構成により表現された色彩と光が織りなす変化を刻々と切り取り、移ろいとともに表現しています。

構成は次の5つ。

1. 茶室の構成=展示された4つの軸組はそれぞれ茶の湯の大成者「千 利休」「古田 織部」「小堀遠州」「織田有楽斎」の茶室「待庵」、「如庵」、「八窓軒」、「燕庵」を表現。限られた空間に茶の湯の所作やシークエンスが計算され、いわゆる日本の「身体性=Somesthetic」が凝縮されている。

2. 10の構成要素=選定した4茶室から10の要素、床(ゆか)、炉、窓、にじり口、床(とこ)の間、柱、中柱、天井、中敷居+鴨居、戸当たりを抽出して抽象化したデザインコードとして表現。素材感を排除した空間からは茶室の持つ純粋なSomesthetic(サメステティック)が感じられる。

3. Somesthetic総覧図屏風=椅子から万里の長城までを歴史的に並べたとき、日本のそれは独自の拡がりを見せる。それは国土の狭さだけによるものだろうか。



オカムラの社長・専務と新居氏とデザイナーの方々



4. 窓の色彩について＝サメステティックをテーマに茶室（4茶室）の構造を分解。最小限の要素を抽出・再構築というコンセプトで茶室全ての22の窓に色のついた糸と色彩作用を操作し、茶室に漂う光を表現するとともに、視点に応じて色彩が変化するインタラクティブな視覚表現を実現。日本語は日の出、日の入りを多彩な言語で呼び分ける。それは日本が西洋にくらべると低照度で暮らしてきたことに由来する。薄暗い環境では光の色の境界が曖昧になり、そのことで微細な変化を感じ分けられるように作用したとされている。今回の展示は、照明を操作し、時間的な差異を陰鬱の中に漂う、ひそかな光の移ろいを表現している

5. 糸の彩色原理＝糸と照明によって

- ①時間に応じて移ろう窓。
- ②視点によって変化する見え方の2つの表現を実現。

今回の「オカムラデザインルームR」企画展のテーマは、「Somesthetic－身体性－」。幾何学的に配置された茶室、それぞれのスペースに差し込む光の色彩。時間とともに窓の色彩が変化し。暗がりの中から浮かび上がる微細な色彩は、空間の境界をなくします。なんとも不思議な感覚の中にぼつんと存在を感じるそんな展示だった。残念ながら作品は展示室内が暗すぎて写真が撮れなかった（フラッシュ禁止）、したがって今回はレセプションの模様のみです。

機会があれば作品を紹介します。



Somesthetics 総覧図屏風



記者発表に参加した各メディアの記者達と関係者



贈られた花の数々。  
右はファッションデザイナーのコシノジュンコ氏より贈呈された花。